

大檀の丘

みんな違うのが当たり前

突然ですが・・・1度も親子ケンカ、兄弟ケンカをしたことがない人はいますか？

さて親子兄弟、毎日顔を合わせている家族でさえときには意見が食い違い、ぶつかることもあるでしょう。まして育った環境の違う他人と意見が食い違うことは当たり前です。でもそんな当たり前のことに気付かず、思いやりに欠ける言葉や態度、行動がトラブルの種となっている事案が多々発生しています。(ただ、学年が上がってくると、思いやりの気持ちや人をいたわ気持ちが増えてくるからかトラブルは減る傾向にあるように感じます。)

そこでいじめの定義を確認しておきます。いじめについては「いじめ防止対策推進法」という法律で次のように定められています。

『児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの』

簡単に言えば、本人が「嫌だな～」と思う行為はすべていじめに該当します。よって「いじめつもりはなかった」「ちょっといじっただけ」「からかっただけ」という言い訳は一切通用しません。よって何かを言う前に「こんなことを言ったら、相手は嫌だろうな～」といった想像力を働かせてほしいと思います。

本校では月1回、学校生活アンケートというものを実施しています。困っていることがあればそこに書くことも出来ます。また前回紹介した「何でも相談BOX」もあるので是非活用してください。

一方で、学校は失敗するところです。

「余計なことを言っちゃったなあ～」「傷つけてしまったなあ～」と思ったら、できるだけ早く謝ることで。相手が許してくれるかは分かりませんが、心を入れて丁寧に謝ることで。そして同じ失敗を繰り返さないようにしてください。



この時期、体育の授業では運動会に向けて、ソーランとザ・フェスティバルの練習を行っています。この曲が聞こえてくると、春が来たなあ～と感じます。

さて前沢春祭り、火防祭、江刺の甚句祭りは、岩手に春を告げる伝統的なイベントですが、一方で、厄年の方々の参加率が年々少なくなっている実態があるようです。過日寄付集めに来た厄年の教え子たちが「人集め大変です」と嘆いていました。仕事が忙しかったり、地元を離れたり、それぞれの事情で参加できないという事は当然あるわけですが、君たちが大人になったとき、可能であれば、お祭りを楽しみにしている今の君たちのような中学生や小学生のためにも、地域の中心となってお祭りを盛り上げてほしいと思います。



学校に居場所がない! と思っている人たちへ

(2年前にも紹介しましたが)私の大好きなエッセイを紹介します。伝説の?パント『ザ・ブルーハーツ』(代表曲は・・・TRAIN TRAIN、情熱の薔薇、リンダ リンダ等)のボーカル、甲本ヒロトさんの言葉です。

ヒロト:「居場所あるよ。席あるじゃん。そこに黙って座っていいじゃないか。たまたま同じ年に生まれた近所の奴が、同じ部屋に集められただけじゃん。趣味も違うのに友だちになれるわけないじゃん。山手線乗って、『はい、この車両全員仲良く友だちね』と言われて、『いや、偶然今一緒に乗ってるだけなんですけど』って。友だちじゃねえよ。ただ、友だちじゃないけどさ、ケンカせず自分が降りる駅まで平和に乗ってられなきゃダメじゃない?その訓練じゃない、学校は。友だちでもない連中と喧嘩しないで平穏に暮らすのが学校じゃないか。だからいいよ、友だちなんていなくても。」



素敵な話

5月1日の朝、水沢南小学校の副校長先生からお電話があり「登校途中、道路で鼻血を出していた小学生を、中学1、2年の2人の女の子が寄り添いながら小学校に連れてきてくれました。最後まで面倒を見てくれたので、中学校には遅刻していくと思います」との連絡。朝から素敵なニュースを聞いて、職員室の先生方で喜び合いました。こういった思いやりの輪がどんどん広がってほしいと思います。

【南中生の活躍】

■第83回全日本学生児童発明工夫展
入賞 岸 朝陽/佐々木柊馬